

正誤表

平成 18 年 9 月 26 日

頁	誤	正														
P.5	(5) について	削除														
P.9	1.2 用語の定義 頂部および基部：波型鋼板のうち，既設の隣接部材に最も近い位置に配置する上端および下端の波形分割鋼板であり，ボルト接合により併合する部分	1.2 用語の定義 頂部および基部：波型鋼板のうち，既設の隣接部材に最も近い位置に配置する上端および下端の波形分割鋼板であり，ボルト接合により閉合する部分														
P.17	$\theta_{m1} = \left\{ (2.7k_{w1} \cdot p_w + 0.22) \left(1 - \frac{N'_d}{N'_b} \right) + 1 \right\} \theta_{y1} \quad (\text{解 3.2.10})$ <p>ただし，$2.7k_{w1} \cdot p_w + 0.22 \leq 3.7$ $N'_d / N'_b \leq 1.0$</p> <p>ここに， p_w：帯鉄筋比（%） k_{w1}：帯筋強度の影響を考慮する係数で，解説表 3.2.1による。 θ_{y1}：Y点における軸方向鉄筋の抜出しによる回転角 N'_d / N'_b：釣合軸力比 N'_d：設計軸力 N'_b：釣合軸力で，軸方向鉄筋の降伏と同時にコンクリート圧縮縁ひずみが「2.4.1 コンクリートおよび鋼材の応力-ひずみ曲線」に示す終局ひずみに達する時の軸力</p> <p>解説表 3.2.1 帯筋強度の影響を考慮する係数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>k_{w1}</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SD295</td> <td>0.85</td> </tr> <tr> <td>SD345</td> <td>1.00</td> </tr> <tr> <td>SD390</td> <td>1.15</td> </tr> <tr> <td>SD490</td> <td>1.40</td> </tr> <tr> <td>SD685 相当</td> <td>1.95</td> </tr> <tr> <td>SD785 相当</td> <td>2.30</td> </tr> </tbody> </table>	種類	k_{w1}	SD295	0.85	SD345	1.00	SD390	1.15	SD490	1.40	SD685 相当	1.95	SD785 相当	2.30	$\theta_{m1} = (6 - 3N'_d / N'_b) \theta_{y1} \quad (\text{解 3.2.10})$ <p>ただし，$N'_d / N'_b \leq 1.5$ ここに， θ_{y1}：Y点における軸方向鉄筋の抜出しによる回転角 N'_d / N'_b：釣合軸力比 N'_d：設計軸力 N'_b：釣合軸力で，軸方向鉄筋の降伏と同時にコンクリート圧縮縁ひずみが「2.4.1 コンクリートおよび鋼材の応力-ひずみ曲線」に示す終局ひずみに達する時の軸力</p>
種類	k_{w1}															
SD295	0.85															
SD345	1.00															
SD390	1.15															
SD490	1.40															
SD685 相当	1.95															
SD785 相当	2.30															
P.20	【解説】(2) について 構造物の耐震性能は，「鉄道構造物等設計標準・同解説（耐震設計）」に準じて定めるものとし，L1地震動に対しては耐震性能Ⅰを，L2地震動に対しては耐震性能Ⅱを満足するものとする。したがって，	削除														

頁	誤	正
	鋼板巻き立て補強した柱部材の損傷レベルは、L1 地震動に対しては損傷レベル 1 を、L2 地震動に対しては損傷レベル 3 以下となるように定めるものとする。	
P.23	(1) について 補強部材は、L1 地震動に対しては損傷レベル 1 を、L2 地震動に対しては損傷レベル 3 以下を満足することを原則とする。	削除
P.25	【解説】 標準部の波形分割鋼板の接合が、上下の鋼板との波形および凹凸形部のかみ合わせと・・・	【解説】 標準部の波形分割鋼板の接合が、上下の鋼板との波形および凹凸形のかみ合わせと・・・